

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LESSON 2 授業例①

S.S. 先生

## 指導計画表

(全 10 時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■とびら ・ プレ活動 (資料 PP1) ■GET 1 ・ POINT の学習 (現在完了形の肯定文) (資料 PP2, 資料 WS1, 2)
2	・ 新出語彙の導入 ・ 本文の導入・理解・音読 (資料 WS3)
3	・ 本文の復習 (書きテスト) ■GET 2 ・ POINT の学習 (現在完了形の疑問文) (資料 PP2, 資料 WS4, 5)
4	・ 新出語彙の導入 ・ 本文の導入・理解 (資料 WS6)
5~7	・ 本文の復習 (書きテスト) ■READ ・ Pre-Reading ・ In-Reading 1 (資料 WS7) ・ 新出語彙の導入 ・ In-Reading 2 ・ 本文の音読 ・ In-Reading3 ・ Summary ・ 本文の音読 ・ Post-Reading Try
8	・ 本文の復習 (書きテスト) ・ 文法のまとめ (資料 WS8) ■USE Listen
9	■USE Speak (資料 WS9)
10	■We're Talking2 (資料 PP3, 資料 WS10)

## 実践例

### 1. 2つのゴールに向かって

この LESSON 2 では、GET で、新文型として現在完了形の肯定文、疑問文を「習得」させる。そして、この新文型を使ったまとまった内容の英文を USE Read で読み取り、USE Listen で聞き取り、USE Speak で話すという「活用」ができるようにする。具体的には、USE Read で、Finland — Living with Forests というタイトルに示されるフィンランド人の森への思い、関わりを読み取り、この読み深めた内容をもとに、Japan is a country of ~. という日本の紹介文を書けるようにするのが1つ目のゴールである。そして、USE Speak で、「あこがれの人物」について、友人にインタビューを行い、レポートにまとめることができるようにするのが2つ目のゴールである。この2つのゴールに向かって、とびらや GET では、Finland という異文化への関心を高め、現在完了形の肯定文を使って自分が長くやっていることを表現できるようにし、疑問文を使って互いにどれくらい長くやっているのかを尋ねたり、答えたりできるようにしておく。USE Listen で聞き取った内容も、インタビューの参考になるので、USE Speak のゴールに向かっていけると言える。

このように LESSON 2 全体の学習目標やおおまかな流れを設定し、次のように各パートの授業を進めていく。

### 2. とびら

Finland は日本人にとってはなじみの少ない国である。LESSON の導入準備として、国名当てクイズ（画像イメージからグループで国名を当てる）を行い、最後に Finland を取り上げて、話題をつなげる。生徒にいくつかのイメージをあげさせた後、オーロラ、家具、サンタ、ムーミンなどをスクリーンに映す。（資料 PP1）

### 3. POINT（新出基本表現）の導入

現在完了形は、日本語にない時制なので、導入の Situation 設定は重要である。GET 1 では(1時間目)、

イタリア人と結婚して以来、イタリアに住んでいる友人を紹介する状況設定で現在完了形（継続用法）を oral introduction で導入する。

She has lived in Italy since she married.

次に、人名と国名、滞在期間が描かれた picture を示して、substitution drill を行った後、自分が新潟市にいつから住んでいるか/生まれてからずっと住んでいるかを横ペア→縦ペア→斜めペアで行わせる（資料 PP2, 資料 WS1）。

I have lived in Niigata since I was born/ for ~.

宿題として簡単な自己表現のワークシート（資料 WS2）を課す。生徒が書いた英文は、3時間目までに添削をしておく。GET 2 では（3時間目）、そのワークシートの内容を使って、「長くやっているのか?」「どれくらいやっているのか?」を生徒—教師の interaction で導入する。その後、ペアで（なるべくつなぎ言葉を使うように促しながら）会話をさせる。

A: Have you been their fan for a long time?

B: Yes, I have./ No, I haven't.

A: How long have you been their fan?

B: (I have been their fan) for 5 years / since 2010.

ペアで information gap を行い（資料 WS4）、ワークシートで POINT の文構造を確認させる。（資料 WS5）

#### 【POINT を学習する時間の流れ】

POINT の表現を理解し、使えるようになろう！

1 どのような場面で使う表現なのかわかる

2 英文の構造がわかる →POINT ノートまとめ

3 Drill→Practice→自己表現の活動ができる。

一人で/ペアで/グループで

Listening Reading Speaking Writing

4 まとめ Worksheet の問題に答えられる

### 4. GET と USE Read の本文の内容理解

GET と USE Read では、教科書本文を扱う目的が異なる。GET については、本文の下に Q&A が一

題ずつある。本文の読み取りの課題は、このQ&Aとする。GETの本文は、新出の基本表現や語彙を導入し習得させるための英文と捉え、全文を暗唱し、日本語訳を見て英文を書けるようにする。(資料WS3, 4)。

一方、USEの本文は、GETで習得した力を活用し、読む力をつけるための英文と捉える。ここでは、「副題のLiving with Forestsには、フィンランドの人々の、森に対するどんな思いが込められているのだろうか。」を読み取りの課題とする。Post-Readingに答えることがその解答であり、この時間のまとめとなる。その答えに近づくために、概要の把握(In-Reading1, 3)や要約(Summary)、詳細な読み取り(In-Reading2 Q&A, Checkの指示語やPOINTの文の確認)を行いながら、少しずつ文章理解を深めさせる。日本語訳ではなく、わからない語彙やあいまいな部文があっても、前後から判断してポイント(問われた内容についての答え)を押さえるようにさせたい。ペアやグループでの助け合い、Post-Readingの答えを見つけれたら、1つ目のゴール達成である。クラス全体で下のようにまとめ、板書する。その時に、その文が自分たちには共感できるか、ピンとこないかを話し合わせ、Finlandと日本の文化の違いを感じさせる。

We are one with the forest.

We must respect it (the forest) and care for it.

We Finns love our forests and have protected them.

このLESSONのTryは、文章で取り上げられ内容について、自分も同じようなことを書く活動である。Finlandの紹介文を参考に、日本についての紹介文を書く。Japan is a country of ~.の文を記事のタイトルとして、まとまりのある内容の英文を書かせる(slow learnerには、タイトルは英語で書かせ、続きの文章は日本語でも可とする)。(資料WS7)。

GETでもUSE Readでも、日本語訳を生徒に課さないが、生徒には内容理解の読み取りをした後で日本語訳を渡す。GETでは、暗唱や本文書きテスト(本文の日本語訳を見て英文にする)のために、その日本語訳を使う。USE Readは、音読は得点対象とせず、書きテストは新出単語のみとする。

#### 【教科書の本文理解の学習の流れ】

本文の内容を理解し、大切な表現を使えるようになるろう！

1 単語、連語の意味と発音がわかる

…ペアで英→日、日→英と確認

2 課題に答えられる

(GET) Q&Aに答えられる

(USE) In-Readingの問題に答えながら、内容を把握する。→Post-Reading/Tryで自分の考えを述べられる

3 英文の構造がわかる…POINT, 連語, 前置詞を色ペンでチェックしながら、日本語と英語を比べてみる

4 音読できる(GETのみ)

①Race:時間内に音読できる

②暗唱:日本語訳を見て英語で言える

5 書きテスト…日本語訳を見て英語で書ける

## 5. USE Speak

USE Speakの活動の目的は、このLESSONで学習した現在完了形(継続)にコミュニケーションを支える働きがあることを、自己表現をすることで実感させることである。ここでは、一方向型(monolog)ではなく、対話型(dialog)のコミュニケーション活動になる。GET 1→GET 2のPracticeで行った活動が土台となっているので、Warm-upの常活動で、ペアでGET 2の以下の会話をさせる。

A: What's your favorite sport?

B: My favorite sport is ~.

A: How long have you played it?

B: I've played it since/for ~.

この時間の課題は「いいインタビュアーになろう。パートナーに「あこがれの人物」について尋ね、レポートを作ろう」である。(資料WS9)1のListenの活動で、尋ね方や答え方のパターンを知るだけでなく、インタビュアーがどんな相槌やつなぎ言葉を使っているかも意識させ、板書でまとめる。2のSpeakが一番大切な活動である。いいインタビュアーとして、話し手にわかりやすく質問し、つなぎ言葉などを使って会話を促すことができれば2つ目のゴール達成である。4人グループを2つのペアに分け、一方のペアのインタビューを残りの2人のペア

に聞かせて評価させる。評価の観点を示し、相互評価をさせることで、パフォーマンスの具体的な目標を意識させる。

#### 【インタビューのがんばりを評価しよう】

- ①声の大きさ・スピード・間は適当か。
- ②発音・アクセントはよいか。
- ③アイコンタクトや表情はよいか。
- ④質問の答えを聞き取れていたか。(メモ)
- ⑤追加質問やつなぎ言葉、繰り返しなどを上手に使っていたか。

3のSpeakとTryの書く活動をまとめて、4人グループで1枚のレポートを日本語で作成させる。「書く」が目標のパートではないこと、さらに「話す」活動の中でもスピーチではなく対話がねらいであること、また、人物の名前のスペルなどを確かめる時間があったくないことが理由である。

## 6. We're Talking

実生活に結び付いた場面が設定されているパートである。文構造指導ではなく、場面とその中心となる表現のはたらきを軸に、日常生活における会話表現を学ばせる。ここでは、コミュニケーションへの意欲を評価するので、まちがいを恐れずに、会話作りやskit発表を楽しませたい。

この単元では、What's the matter?で病状についてたずねたり、I have～.で説明したりする表現を学習する。課題提示では、スクリーンに2人が会話をしている状況を提示し、どんな声をかけあっているかを想像して挙げさせた後、体調の悪そうな人物を映す。How are you?/ I'm fine.では会話が成立しないズレを感じさせ、教科書の本文からこの場面にふさわしい表現を見つけさせる(資料PP3)。GETと同様に、新出語彙や本文をペアで音読、暗唱した後、本文を参考にオリジナル文を作らせる(資料WS10)。ペアの形態で、2人で1つの会話文を作ることで、お互いが助け合い、英語が不得意な生徒も活動に参加できる。会話文を発表する場面(時間によって、クラス全体であったり、グループ内であったり)では、USE Speakと同様に、評価の観点を示し、発表ペア以外の全員で評価をする。

## 7. まとめ

LESSON全体を通して学習課題を設定すること、この教科書においては、GET(習得)とUSE(活用)のねらいの違いを意識すること、各々の課題について、正確さを問うのか、適用力を問うのかをはっきりさせること。この3点が指導計画を作るにあたって留意していることである。

最後に、このLESSONはもちろん、英語の授業において一貫して心掛けている点を挙げる。

- ①身近なテーマについての会話を帯活動のWarm-upとして毎時間行う。つなぎ言葉や繰り返し、追加質問などを用いて会話を続けることができるようにする。
- ②基本表現や教科書本文を導入するときは、状況設定を具体的にを行うため、視覚教材や聴覚教材を多く用いる。(デジタル教科書やPP、ピクチャー、音楽、など)
- ③どの生徒も取り組める働き掛けの工夫として、ペアやグループの形態を使う。新出語彙や本文の暗唱をさせたり、ペアやグループで一つのskitを完成させたりなど、お互いに助け合うことでターゲットを効率的に定着させる。また、課題に個人で取り組ませた後、ペアやグループで(根拠も述べるように)確認をさせて、解答への自信を深めさせる。
- ④活動ごとにポイントを与え、項目と得点を板書しておき、授業の終わりにポイントカード(資料WS11)に自己評価とともに記入させて、その時間の振り返りをさせる。(家庭学習の課題確認)
- ⑤予習を前提としない、授業が勝負、授業で学習したことをノートやワークシート、ワークブックを使って復習させることを家庭学習として課す。

#### 【参考文献】

「NC USE Read 指導のヒントと実践例」三省堂  
TEACHING ENGLISH NOW 2012 特別増刊第3号  
「自己表現としてのスピーキング活動」田中武夫